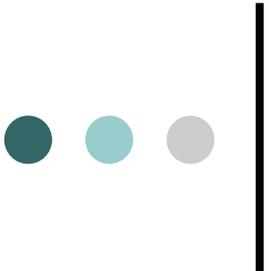


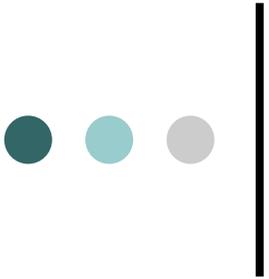
エコな夏服根付くか ～清涼スーツでECO～

A班 加藤、中島、西田、西山



記事の要約

1979年以来、半袖上着を売りにしてきた省エネルギーはなかなか定着せず、今回新名称「クールビズ(COOL BIZ)」と共にノーネクタイ、ノー上着というエコな夏服の推奨に政府は乗り出した。政府は「クールビズ」定着を目指し、オフィス部門における地球温暖化対策の為にCO2削減を目指す。



省エネルギーからクールビズへ 《政府の方針》

1979年

通商産業省(現・経済産業省)による省エ
ネルギーの推奨

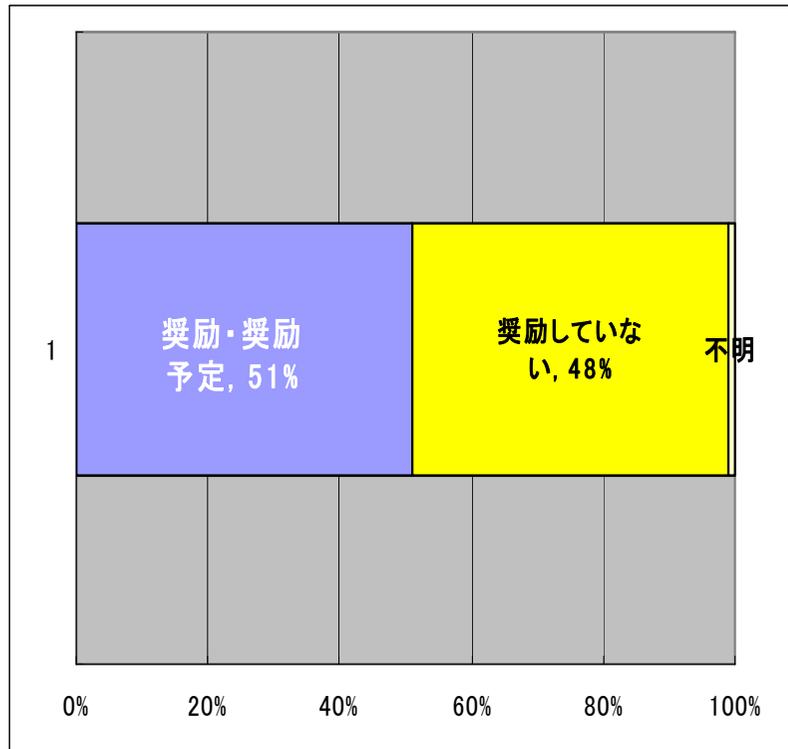
↓ ニューサマースーツと呼ぶも不評

2005年

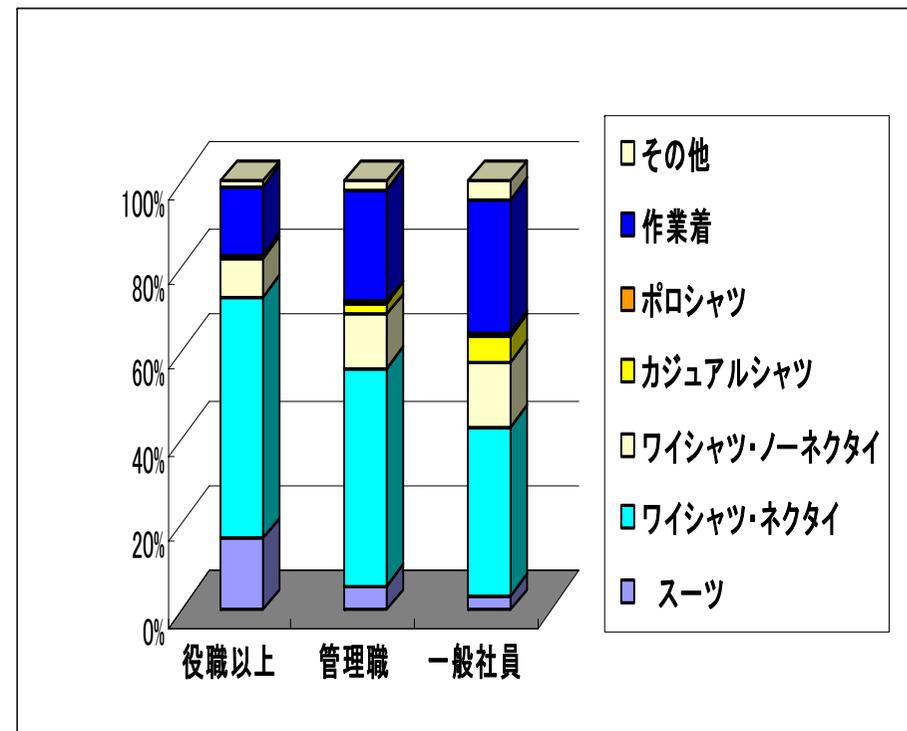
新名称「クールビズ」が誕生。ノーネクタイ
やノー上着等の新たな軽装化を、政府は推
奨

A班の注目点 クールビズの現状

企業の軽装化奨励率

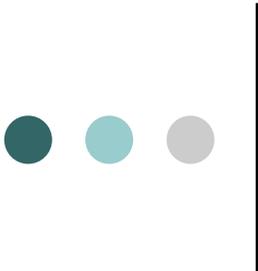


夏季時のオフィス内着衣状況



省エネルギーセンターより

「このグラフより、クールビズではなく清涼スーツを推奨すべきである。」



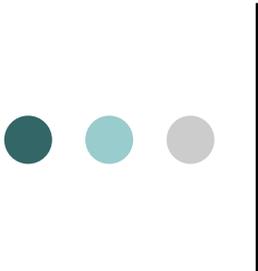
クールビズ(COOL BIZ)の特徴1

- * ノーネクタイ、ノー上着等、働く人たちがビジネスの場で身に付ける夏の軽装のこと
- * ネクタイを外すだけで体感温度が下がり、ジャケットを脱ぐと2°C涼しくなる
「冷房の設定温度を上げることによってCO2を削減出来る」
- * スーツよりもカジュアルなので、若い人に受け入れられやすい(⇔高い年齢層には受け入れ難い)
- * 家計が助かる

●●● クールビズ (COOL BIZ) の特徴2

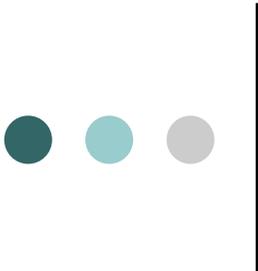


2005/4/27



清涼スーツの特徴1

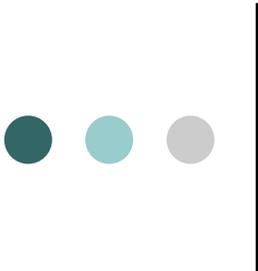
- * 通常の夏用スーツに比べると、4～6倍の通気性により熱の発散が促される
- * 体感温度は4～5度下がる
「冷房の温度設定を上げることによってCO2を削減出来る」
- * 初年度の1997年から好調な実績を上げている
- * ビジネスマンの軽量・清涼スーツの保有率は、既に50%以上を達成した
- * 清涼素材や技術の開発が進み、軽量化・清涼化スーツが進化している(例:バンブーレーヨン素材)



清涼スーツの特徴2

竹繊維（バンブーレーヨン素材）の特徴

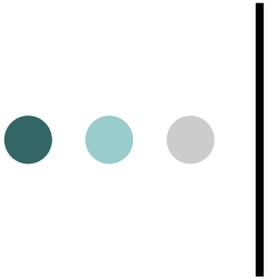
- ①木よりも成長が早いため森林破壊を軽減することが出来る
- ②石油資源のように有限ではなく、上手に管理することにより、資源を全く減らすことなく製品を作ることが出来る
- ③捨てる部分がないので、ゼロ・エミッション（無破棄）につながり、環境問題の面で優れている
- ④竹炭や竹酢液でおなじみの「脱臭効果」「殺菌効果」等、健康に優しい素材
- ⑤吸湿性、放湿性に優れる



冷房の温度設定をかえるメリット

オフィスの冷房設定温度の平均は23°Cである

- ①業務部門において、冷房温度を全国で1°C上げる
 - ・1年間で原油換算約84万kl分のエネルギーを節約できるという試算がある
 - ・全体のエネルギー消費量が約10%減少する
- ②冷房病の減少
- ③女性の冷え性



クールビズの欠点

①長年の慣行

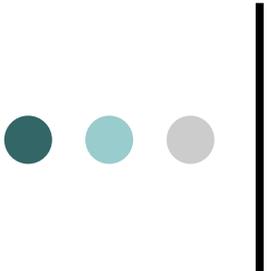
例：顧客の目、品位を欠く

②関連業界への経済的な影響

例：紳士服業界、クリーニング業界

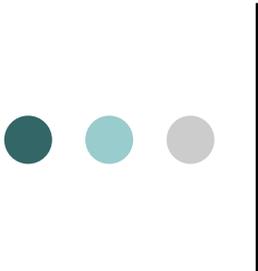
③着なくなったスーツの使い道

(これは清涼スーツにも言えることである)



クールビズの欠点を克服する 清涼スーツ

- ①見た目が変わらないのに涼しさはクールビズと変わらない
- ②既存の清涼スーツと共に、清涼関係の商品の開発等により、紳士服業界が活発になる
- ③清涼スーツ以外の今までのスーツをリサイクルするなど、技術の開発を政府が補助

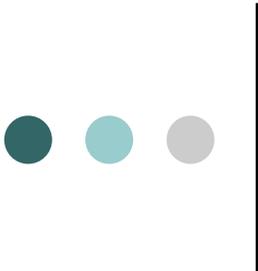


環境白書より

衣生活

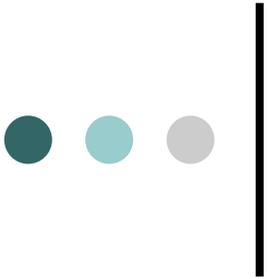
私達が普段身につけている衣服については、夏期のノーネクタイなど季節にあった服装にすること、長く着ることの出来る服を選ぶこと、着なくなった服は廃棄ではなく、リユース・リサイクルに回すことなど省エネルギー省資源に向けた取り組みがあります。

平成15年度版



まとめ

- ・CO2削減という観点だけならば、クールビズも清涼スーツも変わらないが、クールビズの欠点や現実問題を考えると、政府はクールビズではなく清涼スーツの普及率を上げるべきである。
- ・政府は清涼スーツを普及させるために、企業に対して、清涼スーツの広告費や開発費の援助をすべきである
- ・政府は単独で省エネ対策を行うのではなく、消費者の声を聞きながら、企業と協力しあい、清涼スーツ普及に向けた実現可能な行動をするべきである。



参考資料

環境省 <http://www.env.go.jp/>

東京電力 <http://www.tepco.co.jp/>

省エネルギーセンター <http://www.eccj.or.jp/>

<http://www.nayami.jp/eco/007.html>

<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20050427-02439510-jijp-soci.view-001>